お祖師さまをお訪ねする物語 第13回

高祖日蓮大士ご降誕
800年慶讃

先月号でお話したけど、雨乞い（雨が降るように祈ること）の勝負で負けた極楽寺の良観は、お祖師さまの弟子になるという約束を守るどころか、他宗の僧侶と共謀（一緒になって悪いことを計画する）し、幕府の役人を味方につけ、お祖師さまを陥れよう（だまして苦しい立場においやろう）としたんだね。今回は「鶴岡八幡宮への諫言（目上の人に間違いを改めるよう言う）」と「龍ノ口の法難」のお話をするね。

鎌倉④

文永八年（一二七一）九月十日、お祖師さまは、鎌倉幕府の侍所（今の警察）の平左衛門尉の尋問（問いただすこと。取り調べ）を受けたんだね。そして九月十二日、お祖師さまは、平左衛門尉によって捕まえられ、佐渡ヶ島（新潟県）へ流罪（罪人を離れ島に送ること）の刑を言い渡されたんだよ。

でもこれは表向き（うわべ。表面上）のことで、実際は龍ノ口の刑場（死刑をするところ）でお祖師さまの首を切り落とす計画が立てられていたんだ。

夜中の十二時頃、お祖師さまは馬に乗せられ、数百人の兵士によって龍ノ口の刑場まで連れて行かれたんだね。

鶴岡八幡宮
お祖師さまは龍ノ口の刑場に向かわれる道中、八幡大菩薩を諫言された

途中、【鶴岡八幡宮】の前に来た時、お祖師さまは、馬から降りられ、鶴岡八幡宮の御本尊（信仰の対象として最も大切なもの）である【八幡大菩薩】に、『今法華経の行者の日蓮が捕らえられ首を切られようとしています。八幡大菩薩さまは、なぜ仏さまたちの前で誓ったように、この日蓮を守ろうとしないのですか』と、大声でお叱りになられたんだ。

鎌倉の多くの人々が信仰する【八幡大菩薩】を、お祖師さまが叱責（しかること）されたんだから、周りにいた兵士や人々はとても驚いただろうね。

けれど、本当に【八幡大菩薩】は『法華経を弘める法華経の行者を守ります』と仏さまと約束されているんだ。そのことはちゃんと【法華経陀羅尼品】に記されて（書かれて）いるんだよ。

お祖師さまが、いよいよ首を切られようとした時、奇蹟が起こる。江ノ島から月のような光が、まりの如く飛んできて、太刀を取る武士の目はくらみ、おじけづき、倒れ込んだ

龍ノ口の法難

龍ノ口の刑場に着かれたお祖師さまは、全く恐れる様子なく堂々と落ち着いて刑場に座られたんだ。

そして、いよいよ太刀取り（首を切り落とす役）の武士が、太刀（刀）を振り上げた時、突然、江ノ島の方角から、まりのような【光りもの】が現われ、東南から北西に光りながら進み、真夜中であったのに真昼のようにとても明るくなったんだよ。

太刀取りの武士はその強烈な光に目がくらみ倒れ、取り囲んでいた数百人の兵士たちも、ある者は一町（百メートルあまり）先まで逃げ出し、ある者は馬の上でうずくまり、ある者は馬から降り、一人として正気（正常な心）の者はいなかったんだ。平左衛門尉も何も出来なかったんだよ。

この不思議な出来事により人々は驚きおそれて、お祖師さまの首を切り落とすという刑は中止となったんだ。これを【龍ノ口の法難】というんだよ。とても不思議なお話だね。

龍ノ口の刑場の跡（龍口寺の山門の横にある）
刑場跡の立札（左）と刑場地の跡（右）。

龍口寺 「龍ノ口の法難」の霊跡として建てられたお寺